教育家庭新聞

2026年（令和８年）
9月28日
月曜日
第２２８７号

第４月曜日発行

長月・玄月・菊月
十五夜（9/25）
デジタルの日（10/4・5）
探究の日（10/9）

教育マルチメディア

教育家庭新聞社
発行所＝〒111-0053東京都台東区浅草橋3-1-8
TEL：03（3864）8241㈹
FAX：03（3864）8245
郵便振替口座　1309−53693
購読申込み ☎03（3864）8241 Eメール kks@kknews.co.jp
ホームページ https://www.kknews.co.jp/
創刊 昭和36年7月 ©教育家庭新聞社　1部 520円

高等学校改革・AIを活用した校務DX・定数改善など

主要施策を大幅拡充

2027年度 文科省概算要求

2027年度概算要求が公表され、文部科学省は小・中・高等学校に関する主要施策を大幅に拡充する方針を示した。高等学校改革、GIGAスクール構想の深化、次期学習指導要領の実装準備、不登校対策の支援など、学校現場の課題に直結する予算が多数盛り込まれている。高等学校教育改革交付金（新規）やAI活用環境整備の大幅拡充、校内教育支援センター支援員の配置拡充ほかにより学校現場の変革を後押しする。

■高等学校改革を加速

高等学校改革等の推進に向けて、「高等学校教育改革交付金（仮称）」等を創設（事項要求・新規）。N-E.X.T.（ネクスト）ハイスクール構想を推進する。

交付金では、コーディネーター人件費、施設整備費、備品費、旅費、委託費など、改革に必要な経費を都道府県に対して支援する。なお2025年度補正予算で改革先導校は既に採択済み。

定時制・通信制高等学校における教育の質確保・多様性への対応やDXハイスクールによるデジタル等成長分野を支える人材育成等（17億円・新規）も計上している。

■学校DX・学校AXへ

GIGAスクール構想のさらなる推進と学校DX・AX※の推進に向けて、次世代校務DX環境の整備（887億円）を進め実証研究やセキュリティ対策強化、データ整備を行う（※AI Transformation）。

情報活用能力の抜本的向上に向けた条件整備（13億円・拡充）については情報活用能力の抜本的向上のための実践・調査研究（7億円）、情報活用能力の育成・情報モラル教育に関する指導充実のための総合的な支援（5億円）、中学校技術科における免許法認定講習の強化等（0・7億円）を予定。学習者用教材の開発や研修用動画の作成や研修等の提供、認定講習プログラムの開発・運用を行うなどで指導体制の強化を総合的に支援する考えだ。

教育DX環境を支える基盤ツールの整備・活用、教育データ利活用の推進（26億円・拡充）も予定。

学校現場における安全かつ主体的なAI活用環境整備（884億円・大幅拡充）については教育分野に特化したアプリケーションの実証研究事業（9億円）や教育分野に必要な基盤的なデータ整備（92億円）、AI活用に向けたクラウド環境整備（778億円）を展開予定。クラウド環境については適切なアクセス制御やデータ保護等のセキュリティ対策を講じることにより、特に、教員の働き方改革にも資するよう、教職員が安心してAIを校務に活用できる環境を整備する。

■次期学習指導要領の実装準備

次期学習指導要領等が目指す学びの環境の整備に向けて以下を実施（41億円・拡充）。▼デジタル学習指導要領の開発、▼実装に向けた学校等への伴走支援、▼特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援、▼道徳教育の質的向上に向けた取組として「考え・議論する道徳」の事例を創出、▼AIを活用した英語教育の充実、▼理科教育設備の整備等

「デジタルな形態を含む教科書」の導入に向けた環境整備（25億円・拡充）については学習者用デジタル教科書の効率・影響等に関する実証を小・中学校で継続するとともに高校の授業実践も対象に追加。また、教科書ビューアの一括登録システムの新規整備も予定している（デジ庁計上）。

■部活動の地域展開・学校保健・食育

部活動の地域展開等の全国的な実施（155億円・拡充）や現代的健康課題の理解増進など学校保健の推進、学校給食・食育の充実（8億円・拡充）などの予算を計上。

学齢期の健康診断を見直し、地域の医療機関や関係行政機関等と連携した健康診断の実施体制構築を支援。PMH（マイナンバーカード利用による電子的連携）による新たな仕組みの構築も検討する。養護教諭の経験者や有資格者を学校に派遣し、繁忙期や研修時等の体制強化を図る事業を支援。補助率1／3。

【続きはKKSWEBへ】

PISA2025 日本は３分野すべてでOECD１位

高得点層は維持 低得点層が増加傾向

文部科学省は9月8日、OECD生徒の学習到達度調査「PISA2025」の結果を公表した。本調査には91か国・地域、約76万人が参加し、日本からは高校1年生約6500人が受検。科学コンピテンシー、読解力、数学的リテラシーの主要3分野すべてでOECD加盟国中1位と、調査開始以来初めて3分野を制した。革新分野「ラーニング・イン・デジタルワールド（LDW）」でもOECD加盟国中1位となり、日本の学力の高さとデジタル環境下での問題解決能力が示された。一方で、読解力の低下や低得点層の増加、学習への関与の低さ、AI活用の遅れなどの課題も浮き彫りとなった。文科省は次期学習指導要領や情報活用能力の強化を通じ、学びの質向上と格差縮小を図る方針を示している。

■読解力は有意に低下 一方で深い読みは向上

科学コンピテンシーは538点（前回547点）、数学的リテラシー525点（前回536点）と、いずれもOECD加盟国中1位であるものの平均点としては低下。しかし有意差はなかった。一方、読解力503点（前回516点）は、今回の調査で唯一「統計的に意味のある低下」を示した。

この背景として、特に「読みの流ちょう性（速く正確に読む）」の正答率が有意に低下している。短い文章を素早く読み取り、情報を正確に把握する力が弱い可能性がある。一方で「評価し、熟考する」設問の正答率は有意に上昇しており、複数の情報を比較し、批判的に読み解く力はむしろ向上している。

この結果は、読解力の単純な低下ではなく「読みの質の変化」を示唆する。短文読解力低下の一方で探究的な学習の広がりが深い読みを支えている可能性がある。

■低得点層の増加は複数要因の可能性

今回最大の課題は、3分野すべてで習熟度レベル1以下の低得点層が有意に増加した点である。科学8・0%→11・3%、読解力13・8%→18・6%、数学12・0%→16・1%と、いずれも底が広がった。一方、レベル5以上の高得点層は有意差がなく上位層は維持されている。

背景としては学習への関与の低さが考えられる。質問調査では「新しいことを学ぶのが好き」と答えた生徒の割合と目標設定に関する項目がOECD平均より低く、自己調整学習の基盤となる意欲面に課題がある。また、学校の規律や所属感は高いものの、学習への主体的な関与は弱い傾向がある。さらに、家庭環境による学力格差は比較的抑えられているものの、家庭の学習支援頻度はOECD平均より低い。こうした特徴が低得点層の増加と関連している可能性がある。

■LDWはOECD1位 能力と実践にギャップ

ICTを活用した自律的学習を測る革新分野「ラーニング・イン・デジタルワールド（LDW）」では、日本はOECD加盟国中1位。デジタル環境下での問題解決能力の高さが示された。しかし、AIの学習利用頻度はOECD加盟国38か国中最下位であり、能力と実践の間にギャップがある。ガイドライン改訂や教員研修の充実により生成AIの教育利用が進めば、LDWの得点構造が変化する可能性がありそうだ。

■際立つアジア勢の強さ

OECD加盟国中では3分野すべてで1位となったが、世界全体では中国（北京・上海・江蘇・浙江）やシンガポールが依然として強い。日本は世界順位では科学5位、読解力4位、数学5位。OECD内での首位は大きな成果である一方、世界的な位置をどう捉えるのか、今後の教育政策に影響を与えそうだ。

私立11大学が理系転換

文理分断からの脱却を構想

2040年までに約2万人の理工系学部定員増を実行するため、大学・高専機能強化支援事業における「大規模文理横断転換枠」を設定。これは大都市圏の大規模私立大学を主眼に大幅な理系転換を図るもの。支援総額は80億円・最長10年支援。既に首都圏・大都市圏において、長い伝統を有し選抜性の高い私立大学11大学が理系転換・文理分断からの脱却を具体的に構想し、基金活用の意向を表明している（表参照）。このほか学部や大学院を対象にした成長17分野支援枠では愛媛大学（造船分野）・立命館大学（宇宙分野）等が構想中。

「成長分野転換基金（大規模文理横断転換枠）」各大学の検討状況

早稲田大学	●全学的な情報・AI教育組織の設置やダブルメジャーの実施を構想中　●学部学生数の減と大学院の拡充を検討
慶應義塾大学	●自然科学系をさらに充実　●文系学部において文理融合のダブルメジャー実施や、全学的な情報系教育組織の設置に向け検討中
上智大学	●理工学部デジタルグリーンテクノロジー学科を2027年度新設予定　●全学科の学生を対象にデータサイエンス、思考と表現、人間理解、身体知、展開知の各領域から成る「基盤教育」を全学共通科目として展開中　●グローバル教育、リベラル・アーツ及び理工系分野を掛け合わせ、文理超克を目指す新たな教育プログラムを検討中
学習院大学	●既存６学部のうち５学部（法、経済、文、理、国際社会科学）でデータサイエンスを副専攻等とする取組を展開　●今後、データサイエンス関係の学部等設置について検討中
明治大学	●従前より理系人材育成及び分野横断型教育を推進。さらなる理系人材育成の強化に向けて検討中
青山学院大学	●渋谷キャンパスに「統計データサイエンス学環」を2027年度設置予定　●ダブルメジャーの推進と理工系学部が集積する相模原キャンパスの充実を検討中
中央大学	●2027年度にスポーツ情報学部（仮称）、2028年度に情報農学部（仮称）設置予定。理系分野の学部学生比率約19%から約26%に高まる見込み　●2029年度以降の文系学部の定員割譲（他学部に定員枠を譲る）を前提に既存の文理融合学部における教育課程再編を想定して理系拡充を図る構想を検討中
法政大学	●人文・社会科学系学部の定員を減じ、理工系学部の拡充を構想中
関西学院大学	●文系学部からの定員移転による理工系学部の拡充・再編、文理融合学部の新設等の改革案を検討中
関西大学	●社会科学系学部の定員を減らして教育の質を高めるとともに、将来の社会変化や産業構造の転換を見据え、従来の枠組みにとらわれない新たな学部・学科構成による理工系学部の拡充・再編を検討中　●複数の学問領域を横断して学ぶことができる設計を検討中
立命館大学	●「成長分野転換枠」を活用し2028年度、生命科学系を65人増員予定　●「重点分野支援枠」を活用し2028年度に宇宙・地球分野（M100人、D15人）研究科を新設予定　●さらなる理工・デジタル分野の強化に向けて文系学部でダブルメジャーの実施等を検討

AI時代の主体的な学びへの転換

第6回 思考を広げ深める伴走者！生成AIとの対話

～埼玉県久喜市立久喜小学校の取組から～

中村学園大学
教育学部
山本朋弘 教授

生成ＡＩとの対話の様子

友だちと学び合う児童の様子

埼玉県久喜市（柿沼光夫教育長）は、GIGAスクール構想の先進自治体として「久喜市版『未来の教室』」を掲げ、市内の小中学校で生成AIを学びの伴走者と位置づけた授業づくりを進めている。

久喜小学校（青山里美校長）では、教科や学年を超えて、児童が生成AIとの対話を通して考えを深め、広げる実践が積み重ねられている。

6年生の体育「バスケットボール」の授業では、生成AIを「答えを与える存在」ではなく、気軽に相談できる学習パートナー「安西（AI）先生」として位置づけた。児童は自分やチームの課題を安西（AI）先生に伝えて、その助言を参考にチームでの練習に取り組んだ。ある児童は「シュートを打った後の手や指先の向きにポイントがある」という助言を参考に練習したところ、シュートの成功率が大きく高まったとふり返っている。

6年生の社会科「戦国時代」の学習では、生成AIで収集したデータをもとに、織田信長や豊臣秀吉になりきって答える対話型のカスタムAIを作成した。児童は「天下統一により大きく貢献したのはどちらか」という単元全体の問いについて、カスタムAIが演じる2人の武将にインタビューしながら、その回答から考えを整理していった。教科書の記述をノートにまとめるだけの学習ではなく、何度も自分の考えを生成AIにぶつけ、自分の考えを広げたり深めたりする姿が見られた。

4年生の総合的な学習の時間では、地域の祭りをテーマにした俳句カルタづくりに取り組んだ。語彙の少なさから表現に行き詰まっていた児童は、詠み込みたいキーワードを伝えて生成AIに複数の表現案を提案してもらい、その中から自分たちが表現したいニュアンスに近い言葉を選び取ることで、地域への思いを込めたカルタを完成させた。多様な選択肢を瞬時に示す生成AIを活用したことで、児童間の話し合いも活発になり、自分たちの表現に自信をもって活動を進める姿が見られた。

これらの実践に共通するのは、生成AIを「正解を教える存在」ではなく、児童の思考を広げ、深める伴走者として位置づけている点である。教師以外の伴走者が身近に増えることで、誰もが課題を言葉にしやすくなり、自ら考え、試行錯誤する時間が保障される。今後も、生成AIの特性や限界を児童自身が理解しながら、学びの伴走者として活用していくことが期待される。

紙面案内

環境整備・予算確保で次期学習指導要領を実現

次期学習指導要領の学びを実現するための概算要求が計上された。PISA2025により現れた課題も、次期学習指導要領の実現により解決の方向に向かう可能性がある。そのためには情報教育の一層の充実と学校業務改善を図る必要がある

2面　学校業務改革
3面　産学連携で人材育成
4-5面　学校図書館
6面　情報科はAI時代の基盤科目
7面　学校・教育委員会ニュース
8面　学校給食

連載

おいしい献立写真　5面
KOSENから未来を創造　6面

■X（旧Twitter）
@kyoikukatei
■紙面問合せ
✉kks@kknews.co.jp
■購読申込みはこちら→

「教育家庭新聞 教育マルチメディア」購読申し込み書

「教育家庭新聞　教育マルチメディア」は毎月第４週に発行します。メール便でお届けします。電話・ＦＡＸ、またはＨＰからもお申し込みいただけます。

購読者には、新聞紙に加えて、読者専用WebページにアクセスできるIDとパスワードをお届けします。

1．電話 03･3864･8241（弊社販売部）　2．FAX 03･3864･8245
3．ホームページアドレス https://www.kknews.co.jp/　（1部 520円）

お申し込み書（年間12回6,240円）

お名前		
ご職業		
ご住所	〔自宅・通勤先〕（どちらかに○を）　（〒　　－　　）	
連絡先	電話　（　　） FAX　（　　）	お支払方法 ご連絡を頂き次第、郵便振替及び銀行振込の用紙をお送りします。どちらかでお支払いください。

◆知識ゼロからの京大講義シリーズ◆
野生動物学入門
問いから広がる生きものたちの世界
京都大学野生動物研究センター 編
野生動物の暮らしを手がかりに世界の見え方が少し変わる。京大講義をベースに予備知識なしで楽しく学べる入門書。
四六判・208頁
定価2640円（税込）
丸善出版 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-17
https://www.maruzen-publishing.co.jp/

《なるにはBOOKS》シリーズ別巻
好きからつくる自分のトリセツ
心と体・自立と依存
鈴木琴子 著
思春期という繊細な時期に「自分自身を客観的に知り、心と体をメンテナンスしながら社会を生き抜く力を育む」セルフケアをやさしく解説します。
◉ A5判並製／1870円【2026年10月新刊】
ぺりかん社 税込価格
113-0033 東京都文京区本郷1-28-36
☎03-3814-8515 http://www.perikansha.co.jp/

第38回 読書感想画中央コンクール指定図書（小学校低学年の部）
塩野米松の いのちわくわくおはなし絵本
やまんばの12にんのむすめ
塩野米松 文・小沢さかえ 絵
AB判 32頁●1,650円
12年に一度、12月12日、山姥の12人の娘がお母さんのところに集まる。山姥と動物たちは、眠る場所をつくったり、料理をつくったり、12人の娘を迎える準備に大忙し。
突然、山が鳴き、風が吹き荒れた。さあ、宴を始めるよ！
自然と人、手仕事、子どもたちのありようを見つめ続けてきた塩野米松さんが、「いのち」の不思議をテーマに、絵本作家5名とコラボレーションした5冊
●ワニくんがやってきた！　飯野和好 翻案・絵
●くじらのいるこみち　はたこうしろう 絵
●わく　村上康成 絵
●いっぽんのき　松本春野 絵
●やまんばの12にんのむすめ　小沢さかえ 絵
各巻 AB判 32頁●1,650円
農文協 価格税込
〒335-0022 埼玉県戸田市上戸田2-2-2
TEL048-233-9351　FAX048-299-2812

図書館必備！
700万年前から 私たちの祖先 女性は何を見てきたのか！
カラー図鑑
フェミナ・サピエンス全史
人類の進化と女性の祖先
ユストス 文　ロブレド 絵
篠田謙一 監修
新視点のイラスト人類史
洞窟壁画や副葬品からわかる女性のくらし
世界の女性研究者、考古学者、探検家ほか
●2970円
世界ではじめてエベレストの頂点に立った女性
登山家 田部井淳子の物語 初の伝記絵本
安田アニータ 文　清水裕子 絵
おおつか のりこ 訳
●2200円
だまされないために！ 今、知っておきたい大切なこと
〈地球の未来を考える〉情報リテラシー！
AI（エーアイ）のひみつ
－人工知能のしくみと未来のくらし－
ツァーン 文　ヘッセ 絵
竹内 薫 監修　若松宣子 訳
●2090円
西村書店 千代田区富士見2-4-6
☎03-3239-7671（税込）

合同出版
マンガでわかる
子どもの心理検査
強みを知り、未来につなげる
熊上藤子・星井純子［著］
オチョのうつつ［マンガ］　熊上 崇［監修］
―最新刊―
新版K式発達検査2020、田中ビネー知能検査Ⅵ、WISC-V、KABC-Ⅱをマンガでわかりやすく解説。「検査を受けたあと、どうすればいい？」結果の見方から、子どもへの伝え方、学校との共有、支援へのつなげ方まで。「検査のあと」の疑問にやさしく答えます。
■1870円
〒184-0001東京都小金井市関野町1-6-10
https://www.godo-shuppan.co.jp/
TEL042-401-2932　FAX042-401-2931
ご注文は書店または☎048-291-9412

動物の民俗学
吉田扶希子【著】
◉2,420円（税込）
ネズミ、ウシ、トラ、イヌ、キツネ、ネコ──。人はなぜ動物に神を見いだし、ときに恐れ、ときに寄り添ってきたのか。民俗学の視点からひもとく人と動物の関係史。それらを通し、日本人の暮らしと世界観を再発見する。
コロナ時代を生きた僕たちへ
木村恭一郎【著】
◉1,980円（税込）
青春と呼ぶには
あまりにも孤独な春だった──
確かに存在していた学生の感情が、今、言葉となって溢れ出す。学生の視点からあの頃の激動を活写した、鮮烈なデビューエッセイ。
教育評論社 TEL03-3241-3485 FAX03-3241-3486
〒103-0027 中央区日本橋三丁目9-1 https://www.kyohyo.co.jp/